丹波縄文の森塾　　第５日目活動報告　（令和4年7月30日）

7月30日（土）　曇りのち晴れ。

昨日、野焼きをした土器を灰の中から取り上げる土器上げの日です。

壊れずに焼けているか、心配しながら覆いかぶせてあったトタンを取り除くと、薄いピンクがった赤褐色に焼きあがた土器が姿をみせました。

「きれいな色に焼けている」「壊れていない、よかった。」と歓声があがりました。

まだぬくもりが残る土器を大切に、炭や灰の中から取り出し、かかっている灰をていねいに取り除きました。

陶芸家の宮本先生と（公財）滋賀県文化財保護協会の鈴木先生から、塾生がつくった土器、ひとつ一つに対して、講評いただきました。

縄文土器の特徴である縄の模様がしっかりついた土器や、土器の上端に大好きなコブラをのせた作品、土器の上端に飾りの穴があけられたものなど、どれもユニークで、想像力溢れる力作ばかりでした。　　つづく